

幼稚園教育実習に関する研究（Ⅲ）

— 実習中、学生は何に困ったか —

倉掛 妙子

（ 夙 川 学 院 短 期 大 学 ）

I. 調査の目的

日本保育学会第55・56回大会で、学生たちが教育実習の現場で「これには困った」という事柄を調査報告した。(倉掛,2002、2003) 調査結果に基づき「困った」事柄について十分検討し、実現可能なものから対策を講じた。今回の調査は部分保育、研究保育での学生の意識や自己評価から、実習指導に役立つ資料を得ようとするものである。

II. 調査方法

<対象> A短期大学児童教育学科2回生 200名

<期間> 2003年 7月

<方法> マークシート形式によるアンケート調査

III. 調査内容

- ① 保育実習の内容（部分保育・研究保育）
- ② 部分保育で困ったこと：日常生活、お話、造形・製作、運動、音楽
- ③ 研究保育で使った手段、ピアノ、手遊び、素話の自己評価

IV. 結果

【表①.】 保育実習の内容 部分保育は複数回答%

	部分保育	研究保育
日常生活の保育	14.1	—
お話(紙芝居、絵本)を用いた保育	46.9	6.3
造形・制作を用いた保育	15.6	71.1
音楽を用いた保育	14.1	5.6
運動を用いた保育	7.8	14.1
その他	1.6	2.8

【表①.】より、部分保育と研究保育で実施した保育内容に大きな差が見られる。部分保育で最も高率であった「お話を用いた保育」が激減し、「造形・制作を用いた保育」が最も高率を示した。

【表②-1.】 部分保育-日常生活の保育で困ったこと 複数回答 %

けんかをしている園児への関わり	24.5
泣いている園児への関わり	18.7
食事での関わり	11.7
仲間はずれや一人でいる園児への関わり	10.7
掃除や片づけ時の関わり	10.1
けがをした園児への関わり	8.8
お遊びの時間の関わり	5.1
登園、降園時の関わり	3.5
更衣時の関わり	3.5
トイレ時の関わり	3.3

【表②-2.】 部分保育-お話を用いた保育で困ったこと 複数回答 %

全員をこちらに集中させること	21.6
声の大きさ	21.3
導入の仕方	17.8
まとめをすること	16.0
時間配分	9.2
導入から展開の仕方	8.9
用具の準備、片づけ	1.2
その他	4.1

【表②-3.】 部分保育-造形・製作を用いた保育で困ったこと 複数回答 %

作業の進み具合の違い	19.4
時間配分	16.0
全員をこちらに集中させること	11.9
導入の仕方	11.1
まとめをすること	8.5
導入から展開の仕方	8.1
用具の準備、片づけ	7.9
絵の具などの用具の使い方	7.0
声の大きさや話し方	4.9
その他	5.3

【表②-4.】 部分保育-運動を用いた保育で困ったこと 複数回答 %

ルールなどの説明	19.1
全員をこちらに集中させること	12.2
危険防止	12.2
時間配分	10.9
まとめをすること	8.9
導入の仕方	8.6
導入から展開の仕方	6.9
声の大きさや話し方	6.6
用具の準備、片づけ	2.6
その他	12.2

【表②-5.】 部分保育-音楽を用いた保育で困ったこと 複数回答 %

全員をこちらに集中させること	14.4
導入の仕方	14.4
ピアノや伴奏	13.1
まとめをすること	10.4
導入から展開の仕方	10.2
歌詞を教えること	10.0
時間配分	9.1
声の大きさや話し方	8.0
園児たちに歌わせること	6.9
その他	3.6

【表②-1.】より日常生活の保育で困った内容は

けんかをしている園児への関わり、泣いている園児への関わりなどが上位をしめている。

【表②-2.】から【表②-5.】より、保育内容の特徴的な項目を除くと「全員をこちらに集中させること」、「導入の仕方」、「まとめ」が上位を占めている。

【表③-1.】研究保育で使った手段

小道具	41.2
手遊び	28.1
音楽(伴奏、他の楽器、CD、テープなど)	23.5
素話	7.2

【表③-2.】ピアノの自己評価

項目 / 人数、%	部分保育		研究保育		部分保育 -研究保育
	人数	%	人数	%	%
緊張して失敗が多かった	31	45.6	17	25.0	20.6
ピアノに夢中で周囲を見る余裕がなかった	30	44.1	15	22.1	22.1
テンポが一定でなかった	8	11.8	3	4.4	7.4
途中で手を止まっていたが右手は弾き続けた	26	38.2	14	20.6	17.6
意外と緊張しなかった	18	26.5	27	39.7	-13.2
練習よりもうまく弾けた	5	7.4	10	14.7	-7.4
周囲を見る余裕があった	22	32.4	27	39.7	-7.4
ピアノが止まってしまった	5	7.4	3	4.4	2.9
その他	0	0.0	1	1.5	-1.5

【表③-3.】手遊びの自己評価

項目 / 人数、%	部分保育		研究保育		部分保育 -研究保育
	人数	%	人数	%	%
緊張して失敗が多かった	12	15.4	4	5.1	10.3
周囲を見る余裕がなかった	6	7.7	6	7.7	0.0
意外と緊張しなかった	32	41.0	39	50.0	-9.0
練習よりもうまくできた	15	19.2	18	23.1	-3.8
周囲を見る余裕があった	32	41.0	37	47.4	-6.4
手遊びが止まってしまった	2	2.6	1	1.3	1.3
その他	10	12.8	6	7.7	5.1

【表③-4.】素話の自己評価

項目 / 人数、%	部分保育		研究保育		部分保育 -研究保育
	人数	%	人数	%	%
緊張して失敗が多かった	5	33.3	4	28.7	6.7
周囲を見る余裕がなかった	4	26.7	1	6.7	20.0
意外と緊張しなかった	3	20.0	4	28.7	-6.7
練習よりもうまくできた	2	13.3	2	13.3	0.0
周囲を見る余裕があった	2	13.3	3	20.0	-6.7
素話が止まってしまった	3	20.0	1	6.7	13.3
その他	1	6.7	2	13.3	-6.7

【表③-1.】より、小道具が41.2%を占めているのに対して素話は7.2%にすぎない。【表③-2.】から【表③-4.】より、部分保育、研究保育ともにピアノ、手遊び、素話を使った学生の自己評価は、いずれにおいても研究保育の方がよいという結果を示している。

V. 考察とまとめ

日常の保育場面では園児同士のトラブルに対する対応に困っているが、これは研究発表(倉掛、2002、2003)の調査と同様の結果となっている。これらの問題の対処については、事前の指導において十分な心構えを養っておく必要がある。

部分保育ではいろいろな場面での保育を実践することが一般的であるが、研究保育においては実習体験で得たことを参考に得意分野などを考慮して内容を決定できる。そのため、【表③-2】から【表③-4】において示しているようにピアノなどの自己評価が研究保育でよい結果を出していると思われる。

ところが、部分保育の内容は園側が重要視している内容を示しているとすれば、【表①.】の結果は実習を前にした学生にとって考えなければならない大きな問題である。部分保育における「お話」を用いた保育は保育の最も基本なのであることに学生は気づかなくてはならない。「お話」を通して園児たちを集中させ、保育の中に引き込み、保育をまとめることが保育者として大切であるにもかかわらず学生たちは苦手のようである。それを【表①.】および【表②-2.】から【表②-5.】、【表③-1】が示している。もちろんピアノや手遊び、人形などの小道具も園児たちを引きつける手段ではあるが、それを生かすのは「お話」の力が必要ではないか。

村上春夫氏は「語り聞かせとは、子どもの目を見て語りかけ、その反応を目で確かめて先を話す。このわずかの時間の交流が、話者と聞き手の呼吸であり、心と心を結ぶ絆となり、話す側と聞く側との人間関係を深くするのです。」と、語りかけることの重要性を述べている。上手な話し手は「子どもの心にひとつの絵を形づくり・・・」、子供たちは次の情景を自分で描くことができるのである。しかし学生たちの多くは「お話」が主な手段である保育内容を研究保育では選択しなかった。園児たちへ「語りかける」ことの難しさを観察実習や部分保育で体験したのではないか。しかし「お話」がうまく使えるかどうかは保育者の大きな力になる。たとえばピアノが主流となっている伴奏楽器が上手に弾けなくても、弾く前に子どもたちを「お話」の力で音楽の中に引き入れ、音楽の情景の中で遊ばせることができる。そうすれば子供たちはさらに保育のねらいに沿った活動を自発的に行うことができるであろう。

村上春夫氏は「語り聞かせとは、子どもの目を見て語りかけ、その反応を目で確かめて先を話す。このわずかの時間の交流が、話者と聞き手の呼吸であり、心と心を結ぶ絆となり、話す側と聞く側との人間関係を深くするのです。」と、語りかけることの重要性を述べている。上手な話し手は「子どもの心にひとつの絵を形づくり・・・」、子供たちは次の情景を自分で描くことができるのである。しかし学生たちの多くは「お話」が主な手段である保育内容を研究保育では選択しなかった。園児たちへ「語りかける」ことの難しさを観察実習や部分保育で体験したのではないか。しかし「お話」がうまく使えるかどうかは保育者の大きな力になる。たとえばピアノが主流となっている伴奏楽器が上手に弾けなくても、弾く前に子どもたちを「お話」の力で音楽の中に引き入れ、音楽の情景の中で遊ばせることができる。そうすれば子供たちはさらに保育のねらいに沿った活動を自発的に行うことができるであろう。

— 参考・引用 —

村上春夫 「語りの部屋」

<http://www2.nittai.ac.jp/~kuroda/jibunken.html>